

〔『法学新報』第25巻8(289)号 大正4年8月30日〕

## 演説

## ○処世訓

此一篇は去る七月六日中央大学卒業式に臨み奥田学長が卒業生諸氏に与へられたる訓示演説の速記なり若し夫れ其標題に至りては記者の恣に選ひたる所に係る(記者識)

閣下並諸君 本日本学第三十回卒業証書授与式を挙行するに当り数多貴顕紳士の御臨場を辱くしたるは本学の最も光榮とする所でありまして其御同情の篤きに対し茲に謹て感謝の意を表します。由来本学は明治十八年の創立に係るもので恰も本年か創立滿三十年に該当しますから三箇年の課程を履むて卒業する順序で申しますれば本日は第二十七回目の卒業証書授与式でなくてはならぬのであります。而も第三十回卒業証書授与式でありては聊か奇異の感をお抱きになる方も知れませぬか之れには理由のあることと決して第二十七回を第三十回と欺くのではありませぬ。其理由と申すのは外のことではない。本学は是れまでも屢述へたことのある通り大石正巳君、豊川良平君、故馬場辰猪君等か経営して居られた明治義塾と称した法律学校をば学生附て其儘譲り受け英吉利法律学校の名称の下に創立し

法学博士 奥田義人

たものであつて其創立の翌年及び翌翌年に旧明治義塾の学生であつた人人か卒業したることになつて居るものでありますから即ち今回か第三十回卒業証書授与式となる訳であります。而して創立滿三十年の記念式も本日の卒業証書授与式と併せて挙行すれば誠に都合かよいのでありますけれども如何せむ本学の創立滿三十年には今少し月数か足りませぬ。また月数か不足であるのに如何に便利を尊ぶ世の中とは申すものの記念式の繰上げは甚だ穩かてないから之れは別段に十一月中旬過ぎに挙行することに致したのであります。其節には本日御臨場を辱くしました貴顕紳士には是非重ねて御臨場を辱くすることを今より御願ひ申して置きます

緒昨年第二十九回卒業証書授与式を挙行しました際は時恰も諒闇中に属して居つた計りてなく其年の一月早桜島の爆破を見ました以来種種の事変か發生し遂に歐洲に未曾有の大戦乱まで惹起し延いて其影響は我国にまで波及して内外頗る不愉快なる現象を以て充たされて居りましたので来年即ち今では本年は何卒愉快の中に卒業証書授与式を挙行致したいものと樂みて居りましたのに諒闇は既に明けて秋季に至れば目出度即位の御大礼をも行はせられむとする折柄なるに拘らず不幸にも外に在りては歐洲の大戦乱は今尚ほ何れの時に落著することやら更に予測か付かす内に在りては諸業未曾有の不景氣で殊に地方は最も甚たしくて農工商共に泣いて居る様な始末なるか上に政治界には聞くも忌ましき刑事事件か続発し衛生界には恐るべきペスト流行の兆を示して居ります斯くの如きは蓋し浮世の常態ではあ

りまじやうか本日も亦昨年の此頃に劣らぬ不愉快を覚ゆるのは誠に遺憾至極であります。此時に当りて卒業生諸君は三年間本学に在りて終始忍耐勉強せられた効空しからずして茲に卒業証書を受くるに至られたのは私の最も喜ひ且つ満足する所であつて私に於ては浮世の不愉快は之れて全く相殺して仕舞ふた感を為すのであります。去りなから老人は妙なもので兎角子供の行末か案しられる。学校は卒業したか落ち付く先きはどうか後後は如何なる人物になるであろうか何卒やりそこなつて呉れなければよいかたと考へて学校に居つた時よりも一層其心配が多くなるものであります。私は決して諸君を自己の子供視する訳ではないけれども不肖ながらも学長の椅子を汚かして居つて見ると恰も自分の子供のことを案すると同様に諸君の前途か氣に掛るのであります。諺にも案するよりも産むか易いと申すこともあるから何も夫れ程案するにも及はない様であります。そのそこか老人て今日を限りに諸君か学校の籍を離れ各独立の働きをせらると云ふことになつて見ると恰も自分の子供か親許を離れて別居する場合と同じ様な心地かして矢張り將來のことを注意して置かすては氣か落ち付かぬのは誠に止むを得ないのであるから諸君も唯老人の練言と思はず心から出た誠たと思ふて能く聞いて置いて下さる様に願ひたひ。されはと云ふて何も新規なことを御話するのではない全く当り前のことを而も忘れられ易い事柄を二三御話して御別れの辞とするに過ぎないのてあります

即ち其一は他人の身に関し悪言を言わぬ様に心掛けられたいと

云ふことである支那の聖人も自己の外他人あるを知らは礼讓自から興ると申して居ります。人間社会に仲間入りをして居る以上は必ず他人のあることを知らすてはならぬ。既に他人のあることを知る以上は其間には表裏共自から礼讓かなくてはならぬ。我国の様に何れの方面に向つて見ても人か数人集まれば他人の悪言を言ふて喜むて居る様な悪習俗のあるのは文明の今日に於て甚た忌ましき現象でて国民品位の程度か如何に低いかを能く証明して居る様に考へる。我か国も世界の一等国になつた今日のことであるから人の名譽は互に尊重して苟にも之れを傷ける様なことのない様に心掛けて参りたいものと考へるのであります。国民の品位のことは別としても必要もないに彼此と他人を非議し之れか悪口を云ふのは自己の一身に取りて百害あつて一利ないことである。即ち其結果は必ず自から人格を損したる上に廻り廻つて遂に其応報か来るものであることを覚悟せすてはならぬ。私は何も諸君に向て聖人君子になれよと云ふのではない唯紊りに他人の悪口を言ふ位自己の人格の下劣を示し且つ其上に立身の妨げを為すものはないと思ふから注意せられたいと申すまてに過ぎないのであります。其二は誠実に働くことを心掛けられたいと云ふことである。世の中に不遇と云ふことを申しますか是れは恐らくは相当の人物であるのに世に容れられずして悲境に居ると云ふ意味のことでありまじやう。然るに誠実に働いて居る人には概して不遇と云ふことかかないのに見れば所謂不遇は其原因する所主として誠実に働くことかなくして大言壯語を為して日を送つて居る所から自然世の中に相手に

するものかなくなるから起るので全く自から求めた結果である  
ことを知り得る様であります。支那流ては不遇の人と云へは何  
にか世の中に超越して居つて通俗か容れない大人物の様に申し  
ますれとも是れは全然嘘であつて通俗か容れない程に超越した  
様な人物は百年目に一人か二百年目に一人位は出て来ることも  
ありましようけれども決して常にあるものではない。而かも所  
謂不遇の人は常に甚だ多い。而して其の多くは働かずに居つて  
衣食することを考へて居るからてあることを確信致します。此  
セチ辛い世の中で、そんな連中を養ふて呉れる様な慈善家は逆  
もあるものではないから何んでも誠実に働いて所謂不遇の人とな  
らぬ様にせらるるのか最も必要たと思ふのであります。其三は  
分限を越へぬ様に心掛けられたいと云ふことであります。今の  
世の中は上下を問はず分限不相応なことをするのか流行て少し  
金廻りかよければ自分では一向分かりもしないに無暗に高価な  
美術品を買ひ求めて威張つて見たり、広大な家屋を造つて誇つ  
て見たり、自働車に乗つて待合廻はりをして見たり一見中盛  
んなる様ではあるけれども一代の内てさへ此贅沢を押し通す人  
は少ない様であるどうかして其人一代丈けは夫れて済むても  
子の代になると未だ親の死後四十九日の法要も終らぬ内に其美  
術品や家屋か忽ちに売り物に出る事例は決して少なくない様で  
ある。相当の役人て大に威張つて居つて人を眼下に看下して居  
つた者か一朝罷められて忽ちに衣食に窮し俄かに裏棚<sup>店</sup>同然の家  
に住むたり四方八方へ頭を下けて奉公口を頼むたりする様なこ  
とか多い様である。斯くの如きは決して諸君のまねるべきこと

てないと信するのであります人は平素何事に就ても自己の分限  
を越へぬ様に心掛けて初めて人格を完うし一身一家の面目を維  
持することか出来るので今日までは自働車や馬車に乗つて威張  
つても明日からは辻車に乗るのもおほつかないとか、今日まで  
は人を眼下に看下して居つても明日からは人に平身低頭しなく  
てはならぬとか、今日までは料理屋や待合廻りて殆ど自宅て食  
事をしたこともなかつたか明日からは妻子眷族を養ふどころか  
自分一身の養ひさへ六ヶ敷とか云ふか如き波瀾は見様に依つて  
は或は面白いとも云へるかも知れぬか常識ては決して人格を完  
うし一身一家の面目を維持する所以てはないと考へられます。  
而も斯くの如きは主として平素分限を守る心掛けを欠いた結果  
であることを確信致します。諸君か是より社会の各方面に於て  
活動せらるるに当りては私か以上に述べたるか如き事柄は平凡  
な事柄てはあるか輕輕に看過すことなく常に深く注意を払ふて  
置かるる様に切に望みます。尚ほ終りに臨むて諸君に一言して  
置きたいのは外てはない。諸君は今日を限りに此学校の籍を離  
なれらるるとは申すものの此学校て育られた方方であるから此  
学校と諸君とは名誉の連帯である即ち諸君の名誉は此学校の名  
誉なり此学校の名誉は諸君の名誉である。諸君は固より母校を  
思ふの念に厚い方方であることを確信する。故に諸君は母校の  
名誉を毀傷するか如きことなき様努めらるると同時に又母校を  
して益々盛ならしむる様直接間接に尽力せられむことを切に望  
みます。是れか即ち本日の告別の辞であります。諸君幸に健全  
にあられよ